

サポート・トレッキング・グループ 10 周年を祝して

広島大学院国際協力研究科・教授
呉市環境審議会・会長
ひろしまグリーン・インフォメーション・センター・顧問
中越 信和

国内外に「海の街・造船の街」として有名な呉市に生まれた私は、例外的に市内の山に良く出かける子供でした。特に、近所の休山には数えきれないほど登った記憶があります。目的は、最初昆虫採集でしたが、次第に植物の面白さに気付く、実生や種子を集めて家で育てることに専念したものです。

大学から広島市に住むようになりましたが、呉の山々には引き続き出かけていました。土地勘があったので、牧野植物図鑑に記載されている植物を探して覚える事を行いました。大学の卒論以来、呉を調査地にすることがなくなり呉の植物とは縁が遠くなってゆきました。それでも、年に数回は呉の何処かの山には入っていました。

ところが、年々山道が狭くなり、あるいは植生に被われて道がなくなる事態に遭遇したのを覚えています。また、モウソウチクの繁茂も著しく、いわば荒れ放題になってゆきました。里山利用を止めて長い年月がたったためです。そんな折に、グリーンヒル郷原の施設内で里山復活について講演する機会に恵まれ、山林の整備の重要性について語りました。このことや荒れる山林を放置出来ないと考えていた人たちの結集が契機となり、このボランティア・グループが結成されたものと思います。

当会の活動は、現実即した順応的なものです。はじめは、誰でも参加出来るような山道の整備から始まりました。先ほども記しましたが、山林に近づくためには山道の整備は欠かせません。その意味で、ほんとに無理のないプログラムから入ったと感心する次第です。山道がきれいになると気持ち良く山に近づけます。そのうち、荒れ放題の竹藪の整理や薄暗くなったジャングル状の山林の整備を手掛けられたり、東広島市の竜王山での森林整備を応援参加してくれたり、広島県内の森林ボランティアの連合である「ひろしまグリーン・インフォメーション・センター（通称GICと称します）」の主要メンバーになられたりして、活動を広げまた深められてゆきました。GICでは、主に呉方面での活動を担当していただくことになっています。ただ、組織力はしっかりされているのですが、クラブ員の人数が比較的少なく公的経済援助も少なく、さらに高齢の方もおられることからいわゆる大仕事はなかなか出来ない状況のようです。それでも、現在広島県内に一大ブームを起こしている「ひろしま『山の日』県民の集い」（中国新聞等共催）にも、必ず参加され各地の山林整備に活躍されています。

平成21年6月には、地元企業「中国木材」の強力な支援により、第8回大会を呉市で開催されました。グリーンヒル郷原を中心とする場所とし、呉市長も参加されたこの大会は大変盛大に挙行され、呉市民だけでなく広島県民にも山林整備の重要性を認識してもらえ絶好の機会となりました。第9回大会は、山の日を一度引き受けると毎年行うという実行委員会の方針に賛同され、「ひろしま『山の日』県民の集い」を前回の大会会場となったグリーンヒル郷原で、自力で実施されました。来年の第10回大会も実施していただけるものと信じております。これらの、一連の活動に対して、同じく森林ボランティアである「西条・山と水の環境機構」から2度表彰されています。

さらに、RCC主催のエコロジーフアンドに応募され、2007年、2009年、2010年と3回も受賞されました。理想が高く、理論的にも技術的にも水準の高い、当会の今後の発展を期待するものです。とくに、冒頭にも書きましたように私を満足させてくれた生物的自然が呉市には残っています。

また、今は合併で呉市になった、下蒲苅（私が旧町史を編集）・蒲刈（私は旧町史の主編集者）にも豊かな自然が残っています。これらの自然を守るには当会の活動方針が明確な参考になります。20万人余りの都市の人たちは、もう一度市内の自然を再評価し、可能な方は当会に参加され、活動も共にして下さい。呉の自然を守るのは、やはり呉市民であって欲しいと考えています。

以上を、サポート・トレッキング・グループ発足10周年の祝辞とさせていただきます。

（インドネシア・ボゴール農業大学にて平成22年8月12日）